

滑川民報

第151号
2021年10月発行

連絡先 ☎475-3767
日本共産党滑川市委員会
日本共産党議員団



滑川市議会9月定例会は、9月2日から27日まで開催。市長から提出された令和3年度滑川市一般会計補正予算(第3号)、令和2年度一般会計決算認定など16議案と、追加提案された人事案件などを可決し、閉会しました。
「コロナ禍によるコメの需給改善と米価下落の対策を求める意見書」は、日本共産党以外の議員が反対し(1名は退席)、不採択となりました。反対議員からの反対討論はなく、理由を明らかにしない反対でした(記事参照)。
古沢議員の代表質問、角川議員の一般質問とそれに対する答弁の概要は次のとおりです。

滑川市議会議員

古沢 利之



放課後の児童クラブについて

古沢 県による支援員の研修制度が始まって数年たつ。受講の進捗、支援員配置の考えはどうか。

上田教育委員会事務局長

新型コロナウイルスの子どもへの対策は

古沢 子どもの感染対策はどう取り組むのか。

上田教育委員会事務局長

これまで学校や保育所に、衛生用品や備品購入への財政支援をしてきた。教職員、支援員などはワク



西部小学校に隣接された「げんきっこクラブ」

市内の支援員、補助員76人のうち49人がすでに受講し、支援員の資格を取得している。配置基準は国の基準通り、1単位2名配置としている。

でも10歳未満の感染が確認されている。主に家庭内感染とされ、若い親世代への接種が重要になっている。

古沢 これまでも検査の拡充を指摘してきた。どう考えるか。

網谷部長 県外への移動等があり、感染への不安

放課後児童クラブ支援員等時給比較 (子ども課資料より)

自治体	資格等	時給
富山市	主任指導員	950円
	主任以外	925円
魚津市	支援員	925~983円
	補助員	897~951円
滑川市	支援員	880円
	補助員	880円

古沢 支援員の賃金は現行、時給880円だ。10月から富山県の最低賃金は877円になる。最賃をわずかに上回る程度だ。引き上げるべきだ。
上田事務局長 処遇改善は重要と認識しており、検討していきたい。

があり希望される方に、唾液でのPCR検査を無償で実施することにする。
古沢 国は学校関係に抗原検査のキットを配布すると聞く。

伊東教育長 マニュアルに従い、教員が行う。あくまで緊急的な場合に教員が対応する。

加齢性難聴への対策について

加齢性難聴への対策について



古沢 加齢性難聴への関心が高まっている。高齢になっても社会生活を維持していくことについて認識を問う。

網谷産業民生部長 難聴は、認知症、うつ病、などの要因の一つとも指摘されている。介護予防でも影響があると考えている。

古沢 加齢性難聴は本人が症状を自覚するのが遅い傾向にあるが、早期の対策が必要とされる。軽度からの補聴器購入助成は検討されているか。

網谷部長 障害区分の軽度、中度については補助の対象になっていない。

古沢 障がい者への日常補装具助成では、対象は聴力70デシベル。40センチ離れて会話が困難な状態とされる。きわめて高度な難聴だ。WHOは聴力40デシベルからの補聴器使用を推奨している。

網谷部長 これまでも調

集団補聴システムで

古沢 集団補聴システムは講演会、会議等でマイクで拾った音を聞こえにくい方の受信機へ直接伝えるものだ。これについての見解を問う。

網谷部長 このシステムは話者のマイク等から、

防災訓練を

防災訓練を

古沢 8月の県の防災訓練で市としての課題を引き出すことはできたのか。

石坂総務部長 避難所開設、運営訓練では、班長に反省点を聞き取りした。古沢 反省点は引き継ぐ

補聴器等に直接的に音声

を伝える機器の総称と認識している。福祉介護課と地域包括支援センター窓口

に、ヒアリンググループの卓上型を設置している。他の施設へは施設側と協議して検討したい。

古沢 今後高齢化が一層進む。聞こえの問題を抱える方も増えると予想される。人として意欲的に生活するためにも積極的な検討を求めます。

網谷部長 このシステムの有用性はよく認識している。しかし、費用等課題もあり、今後も研究していきたい。

米価下落の

米価下落の対策を定める

最終日、日本共産党議員団は「コロナ禍によるコメの需給改善と米価下

落の対策を定める意見書」を議員提案しました。意見書は、①コロナ禍で過剰になった在庫を政府が買い入れること。②買い上げたコメを生活困窮者支援に活用すること。③外国産米（ミニマムア

米価の下落の件で

古沢 本年産の米価が大

幅な下落になっている。コシヒカリの概算金では昨年の1万3,000円から2,000円下がって、1万1,000円だ。市内全体での影響をどう見ているか。

網谷部長 市全体で、本年産米がコシヒカリと仮定すると、約1億4,000万円の減額になる。

古沢 市としての対策は考えているか。

網谷部長 対応として想定されるのが、経営所得安定対策の「ナラシ対策」、



農業共済組合の「収入保険」である。制度のPRを関係機関と連携して進めたい。

古沢 北陸農政局によれば、令和元年度の北陸地方でのコメの生産費は、60キあたり1万4,670円だ。生産費を大きく下回る価格だ。国、県へ対策を強く求めるべきだ。

網谷部長 米価下落は、全国的な問題だ。県農林振興センターやJA等と連携しながら要望する必要があると考えている。

採決の結果、賛成は日本共産党議員団の2名で否決となりました。

反対者は、反対討論も行わず、反対理由を述べないままでの反対でした。

滑川市議会議員

角川 まさと



大雪への備えは
次の降雪までに
間に合わせよう



角川 今年1月の大雪を受け、議会で多くの質疑が

行われたが、その中に大雪の際のマニユアルの策定

災害時避難で
開設作業の迅速化と
感染症対策の必要性訴える



角川 8月に行われた富山県総合防災訓練で、コロナ禍を踏まえた避難所の開設運営訓練などが実施されていたが、間近で見ていると、手順を確認しながらというのもあってか、パーティションやベッドの組み立てに結構時間がかかっていた。本番時にスムーズな設営を行えるように、半年ごとなど定期的な訓練を実施するべきではないか。

角川 これまでも災害時に避難者が不便を感じないように、避難所に各種備品を揃えてきたが、特に感染症対策のための備品はこれまで準備してきたもので不足はないと考えているか。また、今用意している備品は、どのくらいの期

間を想定して準備しているのか。

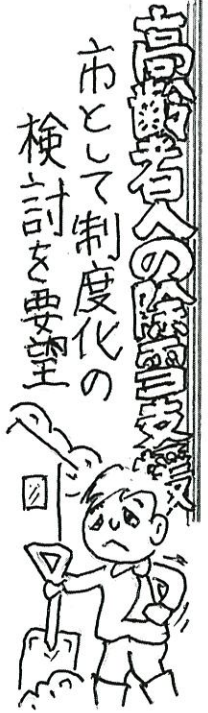
櫻井主幹 飛沫感染防止用としては、段ボール間仕切りとベッドをそれぞれ約三百基を備蓄し、各小中学校へ一定数配置してある。そのほか、非接触式の温度計やマスク、消毒液なども備蓄してある。各避難場所に配備してあるものを使って設営し、不足した分は備蓄庫や未開設の避難所から転用などで対応したい。また、備蓄してある食料等の初期対応分は、3日分を想定している。



パーティションやベッドの組み立てをする訓練 市総合体育館

を検討する、というのがあった。どうなっているか。北島建設課長 富山県が先の大雪を教訓として「災害級の大雪時におけるタイムライン」の案を作成し、現在パブリックコメント

を実施している。5月以降、県と協議を重ね、連携除雪の拡大を検討している。マニユアルの策定は、タイムラインの策定や連携除雪の体制が整ってからのことを考慮し検討したい。



市として制度化の
検討を要望

角川 今滑川市では、豪雪時に年度で区切って高齢者世帯に対する雪下ろし援助を行っている。しかし今では雪下ろしの機会は少なく、玄関が大雪で埋まってしまうことへの対応の方が求められているのではないか。この玄関先の除雪への援助は考えられないか。また、年度ごとに区切るのではなく制度化してしまえないか。

角川 屋根の雪下ろしはまれになったからこそ、玄関先の除雪への援助を代わりに検討していただきたい。地域ぐるみの活動もいいが、昔に比べ、近所づきあい等の機会は減っている。手伝わたら援助が出るといった形にした方が、円滑に助け合えるのではないか。

石川課長 現在、介護予防と生活支援の推進について協議する協議体を各地区で設置している。その中で、玄関先の除雪について、隣近所ぐらいいはなかなか支援してもらえない場合もあるので、町内の中でどうしていくかといった事など、今まさに話し合いが行われている。市としてこの協議体を支援していきたい。

市民アンケートへの
活動が感謝状を届ける

日本共産党議員団は、8月から、皆さんに「市民アンケート」をお願いしてきました。先日までに、過去からのアンケート活動で、最も多い返信をいただきました。

「コロナ禍で、生活が苦しくなった」、「人と会う機会が減った」「コロナ対策が不満」などのほか、市

政への率直な意見を寄せていただきました。

際立ったのが、厚生連滑川病院が、国から統合再編の対象とされたことについてです。コメントを寄せていただいた方のほとんどが、「とつても困る」「理不尽」「反対」とのご意見でした。みなさんの声を力に、計画の撤回を求めています。

さまざまなお意見とともに、議員団への叱咤激励もいただきました。



厚生連滑川病院

健康診査の受診率が低下
新型コロナで受診を控える

9月議会では令和2年度の決算に関する審査が行われました。その中で令和2年度の各種の健康診査の受診率が低下していることが明らかにされました。

提出された資料によると、40歳から74歳までの特定健診では5.3ポイント、75歳以上の後期高齢者の健康診査で3.4ポイント、いずれもコロナ前の令和元年から低下しています。

さらに、がんの検診では各部位別の受診率もすべて低くなっていました。早期発見、早期治療こそが大事ですが、新型コロナウイルスの影響で受診控え、検査控えが影響したものとみられています。

発見の遅れで重篤化につながるのではないよう、医療・保健関係者は積極的な受診をよびかけています。

がん検診受診率 (単位 %)

区分	肺	胃	大腸	子宮	乳房
平成28年度	49.0	40.9	40.3	34.2	36.3
平成29年度	50.1	49.8	40.4	34.3	36.0
平成30年度	50.0	46.5	40.2	34.0	36.2
令和元年度	50.4	45.0	39.2	33.8	34.0
令和2年度	42.4	39.2	32.8	27.7	33.0

(決算委員会資料より)